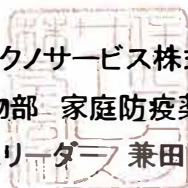


# 試験成績報告書

## D7 泡タイプの クロゴキブリ卵鞘に対する殺卵効果 (直撃噴霧試験)

2022年1月11日

住化テクノサービス株式会社  
応用生物部 家庭防疫薬チーム  
チームリーダー 兼田 久史



D7 泡タイプのクロゴキブリ卵鞘に対する殺卵効果  
(直撃噴霧試験)

委託元：D7 ジャパン株式会社

試験機関：住化テクノサービス株式会社 応用生物部 家庭防疫薬チーム  
〒665-0051 兵庫県宝塚市高司 4 丁目 2 番 1 号  
TEL:(0797)74-2090 FAX:(0797)74-2095

試験番号：E21-026-3

試験担当：小山 翔子、犬丸 章博、杉本 周作

試験期間：2021 年 10 月 28 日～2021 年 12 月 23 日

I. 試験目的(依頼事項)

D7 泡タイプのクロゴキブリ卵鞘に対する殺卵効果を評価する。

II. 材料および方法

1. 供試検体

委託元より提供された D7 泡タイプを検体とした。

2. 供試虫(図 1)

クロゴキブリ *Periplaneta fuliginosa* 卵鞘(成虫から離脱後 7 日以内)

※住化テクノサービス株式会社累代飼育系統



図 1. クロゴキブリ卵鞘

3. 試験方法

クロゴキブリ卵鞘 5 個を 200B ポリカップに入れ、直径 80cm の枠内に 3 個(3 反復分)設置した(図 2)。検体を噴霧装置(図 3)に入れ、枠内に約 15 秒間噴霧処理した(図 4、委託元にて実施)。噴霧から 10 分後にすべての卵鞘を新しいポリカップに回収し、無処理の卵鞘とともに室温約 25℃一定、16 時間明期 8 時間暗期条件下にて維持した。2 ヶ月後に孵化幼虫数を記録し、3 反復の結果から以下の式により孵化阻害率(%)を算出した。

孵化阻害率(%) = 処理区の合計孵化幼虫数 / 無処理の合計孵化幼虫数 × 100



図 2. 枠内(直径 80 cm)に設置した供試虫



図 3. 噴霧装置(委託元にて用意)



図 4. 試験状況。左:噴霧処理中、右:処理後の供試虫

### III. 結果

D7 泡タイプのクロゴキブリ卵鞘に対する殺卵効果を表 1 に示す。D7 泡タイプ噴霧処理から 2 カ月経過後における無処理区および処理区の孵化幼虫数それぞれ 166 頭および 0 頭であり、処理区における孵化阻害率は 100%であった。また、処理区における未孵化卵鞘では体節や眼点の形成が認められなかった(図 5、6)。

表1. D7泡タイプのクロゴキブリ卵鞘に対する殺卵効力

処理区	反復	供試卵鞘数	2ヶ月後孵化幼虫数	孵化阻害率(%)	未孵化卵鞘内の卵の発育状態
D7泡タイプ 処理区	1	5	0	100.0	すべての卵鞘で体節や眼点の形成が見られず、処理後早期に死亡したと思われる。
	2	5	0		
	3	5	0		
	合計	15	0		
無処理区	1	15	166	0	体節、眼点形成が認められた。

試験期間: 2021年10月28日~2021年12月23日

供試虫: クロゴキブリ卵鞘(雌成虫から離脱後7日以内)

方法: カップに入れた卵鞘に検体を噴霧処理し10分後に回収、25℃にて幼虫が孵化するまで維持

孵化阻害率(%)=(1 - 処理区の平均孵化幼虫数 / 無処理区の平均孵化幼虫数)×100

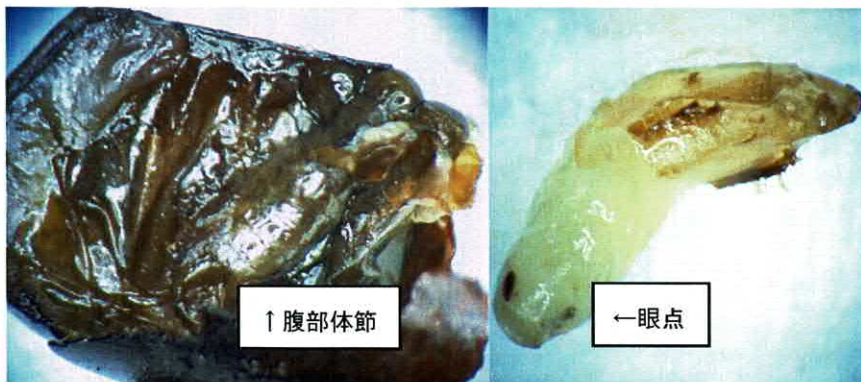


図 5. 無処理区の未孵化卵鞘内部の卵



図 6. D7 泡タイプ処理区の未孵化卵鞘内部

以上